

地域みんなの笑顔のために



17年4月、社会全体で発達障がいを理解し支援をしていくために「発達障害者支援法」が定められました。発達障がいというのは総称で、主に①広汎性発達障がい、②学習障がい、③注意欠陥多動性障がいの3つに分類されます。発達障がいは長い間、親の育て方に原因があると言われてきましたが、それは誤りです。詳細についてはいまだに不明ですが、先天性の脳機能の障がい、基本的には生涯にわたると言われています。

発達障がいと聞くと、皆さんはどのようなことを思い浮かべますか。発達障がいがある人と接したことが無いとなかなかイメージしづらいかもしれませんが、だからこそ、発達障がいのことを皆さんに知ってもらいたいと思います。

例えば広汎性発達障がいとは、自閉症やアスペルガー症候群など自閉的特性を持つ一群の障がいのことです。話している相手の表情から感情を読み取ることや場面の変化から次の行動を予測することが苦手。人から話しかけられても自分に話しかけられていると気づきにくい。自分の興味のあることを夢中で話すぎてしまう。予定が急に変わると動揺してしまうなどの特徴があります。しかし、言葉だけではなく、もともとわかりやすく身ぶり手ぶりを交えて伝えたり、予定が変わった後の見通しが分かるように説明したりすることで、発達障がいがある人も苦手なことが克服できます。すると、本人も持っている能力が発揮できて自信がきます。周囲も「どうして伝わらないのかな」という不安な気持ちが軽くなって「こう接するのいいんだな」という自信がきます。誰にでも苦手なことはありますが、そこにばかり注目されて



ある調査では、発達障がいのある子は、児童人口の5%、もしくはそれ以上であるとされています。発達障がいは特別な存在ではなく、それだけ身近な存在

しまったら萎縮してしまいます。発達障がいのある人も、脳機能の障がい上手なことがありますが、外見からは非常に分かりにくいので、誤解を招きやすい傾向があります。周囲の皆さんは「なぜできないの」ではなく「こうするとできるのでは」という気持ちで接してみてください。

在だということ。障がいのある人も無い人も、もとお互いのことを分かり合うためには「お互いを理解する」ことが必要です。「偏見」がその障害にならないことを願います。発達障がいがある子どもが家族が、発達障がい早期に気づき、専門的な機関で必要な療育を受けることができる。発達障がいのある人が、地域社会の中で自分の能力を活かしながら生活できる。町では、そんな支援ができるように取り組んでいきます。

▼相談・問い合わせ先
町保健福祉課 社会福祉業務
☎(62)2115
発達障がいサポートコーナー
福島県ばんだい荘あおば
☎(65)2711
県発達障がい者支援センター
☎024(951)0352



獅伸くんの名前には「のびのびと元気に育ってほしい」というパパとママの思いが込められています

獅伸 獅伸くん

平成22年1月生まれ
～都沢
勉さん・文枝さん夫婦の長男

とっても甘えん坊だという獅伸くん。大好きなママと一緒に

最近、言葉を発し始める大人のものまねもするようになったという獅伸くん。つたい歩きで家の中を自由に移動します。「テレビを見てくださーい。いくらきれいに掃除をしても触ってしまうから、手の跡がべつたりです」とあきれたように話すママの文枝さんだが、その表情はやさしい。ママが家事をこなす間は、パパの勉さんと遊んでいるという獅伸くん。特にパパの肩車とお風呂が大好きなんだとか。「お風呂からあがるのを嫌がって泣いてしまうので、着替えをさせるのが大変なんです」と笑う文枝さん。「暖かくなったら、散歩、ビニールプールやお出かけなど、外でいっぱい遊ばせたいです」と笑顔で話しました。

※「笑顔でこんにちは」に掲載希望の人は広報担当まで申し出てください。
☎(62)2111

サークル紹介

Circle introduction

新年を迎え、会員の皆さんが初めて顔を合わせる初釜の日、熊倉宗久社中の稽古場にお邪魔しました。稽古前のひととき、会員の皆さんの楽しそうな笑い声が聞こえてきます。

「お茶は楽しいものです。楽しみながら茶事(お茶と食事のマナー)を学んでほしいですね」と話すのは熊倉久子代表。

「お茶を通して、人間関係も深まります。猪苗代を離れても、たまに訪ねて来てくれる人もいてうれいすね」と笑顔を見せます。土津神社の例大祭や学びいな祭りなど町内のイベントでも活躍している熊倉宗久社中の皆さん。毎週木、金、土曜日、会員の都合に合わせて、日中だけでなく夜も稽古をしています。連絡先 熊倉久子代表
☎(66)3355

※このコーナーでは、活動をPRしたい団体を募集します。希望する団体は広報担当まで問い合わせてください。☎(62)2111

裏千家 熊倉宗久社中 (熊倉 久子代表)



(写真左)初釜の日は、師匠がお弟子さんにお茶を振る舞う。お茶をたてる熊倉代表 (写真右) ゆっくりとお茶を楽しむ会員の皆さん

「新しい仲間も募集しています」と話す会員の皆さん

